

MSE 141 C

**STIHL**



2 - 26 取扱説明書



## 目次

1	ごあいさつ	2
2	はじめに	2
3	概要	2
4	安全に関する重要事項	3
5	チェーンソーの使用準備	10
6	チェーンソーの組み立て	10
7	チェーンブレーキを掛ける/解除する	12
8	チェーンソーのオン/オフ切り替え	12
9	チェーンソーの点検	13
10	チェーンソーの操作	14
11	作業後	18
12	運搬	19
13	保管	19
14	清掃	19
15	整備	19
16	修理	20
17	トラブルシューティング	20
18	技術仕様	21
19	バーとチェンの組み合わせ	22
20	スペアパーツおよびアクセサリ	22
21	廃棄	22
22	EC 適合証明書	22
23	パワーツールの安全上の一般的警告事項	23

## 1 ごあいさつ

お客様各位

STIHL 製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。弊社では、お客様のご要望を満たす高品質の製品を開発し、製造しております。弊社の製品は、極端な条件下においても高い信頼性が発揮されるよう設計されております。

STIHL 社は上質なサービスでも定評があります。弊社販売店は、お客様にご満足いただける助言や商品説明だけでなく、広範なサービスサポートも提供しております。

STIHL 社は天然資源を持続可能かつ責任ある方法で利用することに尽力しており、この方針を明示しています。本取扱説明書は、製品の長きに渡る耐用年数において、お客様が STIHL 製品を安全かつ環境に優しい方法で使用するのに役立つよう考えられています。

弊社をご愛顧いただきまして有難うございます。今後とも STIHL 製品をご愛用いただきますようお願い申し上げます。



Dr. Nikolaas Stihl

**重要！**初めて使用する前に取扱説明書をお読みください。取扱説明書は、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。

## 2 はじめに

## 2.1 本書内の警告表示



警告

- 重傷または死亡の原因となるおそれのある危険を示しています。
  - ▶ 記載されている対策を講じると、重傷または死亡事故を防ぐことができます。

## 注記

- 物的損害の原因となるおそれのある危険を示しています。
  - ▶ 記載されている対策を講じると、物損事故を防ぐことができます。

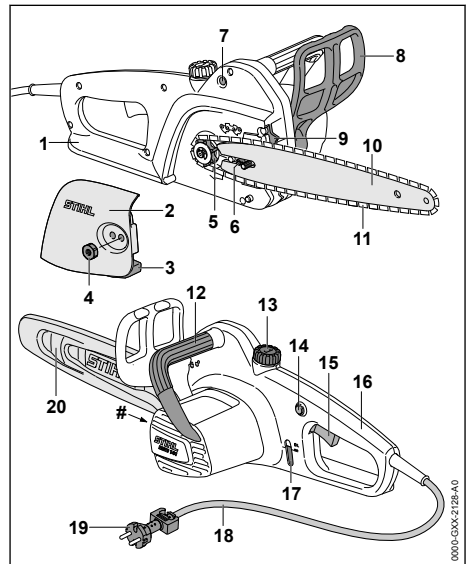
## 2.2 本文中の記号



この記号は、本取扱説明書の章を示します。

## 3 概要

## 3.1 チェンソー



## 1 後ハンドガード


バーから外れるか、破断したチェンがオペレーターの右手に接触するのを防ぎます。


- 2 **チェンスプロケットカバー**  
チェンスプロケットを覆い、ガイドバーをチェーンソーに固定します。
- 3 **チェンキャッチャー**  
バーから外れるか、破断したチェンがオペレーターに接触する危険を低減します。
- 4 **ナット**  
チェンスプロケットカバーをチェーンソーに固定します。
- 5 **チェンスプロケット**  
チェンを駆動させる歯付きホイール。
- 6 **テンショニングスクリュー**  
チェンの張りを調整します。
- 7 **リセットボタン**  
過負荷保護機能がリセットされます。
- 8 **前ハンドガード**  
チェンがオペレーターの左手に接触するのを防ぎ、チェンブレイキを作動させるスイッチとして働き、特定のキックバック状況下で慣性力によってチェンブレイキを作動させます。
- 9 **バンパースパイク**  
切断中にチェーンソーを木材に安定的に接触させ続けるための歯付きストップ。
- 10 **ガイドバー**  
ソーチェンを支え、導きます。
- 11 **ソーチェン**  
木材を切断します。
- 12 **ハンドルバー**  
チェーンソーの保持、制御、運搬用に使用します。
- 13 **オイルタンクキャップ**  
オイルタンク用の蓋。
- 14 **ロックボタン**  
トリガーのロックが解除されます。
- 15 **トリガー**  
チェーンソーのオン/オフを切り替えます。
- 16 **コントロールハンドル**  
チェーンソーの操作、保持、制御に使用します。
- 17 **点検用窓**  
チェンオイルレベルの点検用。
- 18 **接続ケーブル**  
チェーンソーを電源プラグに接続します。
- 19 **電源プラグ**  
電源ケーブルを延長ケーブルに接続します。
- 20 **チェンガード**  
ユーザーがソーチェンに接触しないよう保護します。


## # シリアルナンバー付き定格ラベル


## 3.2 記号


チェーンソーに表示されている記号の意味：


 この記号は、チェンの回転方向を示しています。


 チェンブレイキは、この方向で掛かります/解除されます。

 ハンドガードがこの位置のときは、チェンブレイキが解除されます。

 ハンドガードがこの位置のときは、チェンブレイキが掛かります。

 使用可能なガイドバーの長さ。


 **LWA** 製品が発する騒音を比較できるように、指令 2000/14/EC に準拠して決定された dB(A) 単位の音響出力レベル保証値。


 本製品は、家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。


## 4 安全に関する重要事項


### 4.1 警告マーク


チェーンソー上の警告マークの意味は以下の通りです：


 安全上の指示とその対策を遵守してください。


 取扱説明書を読み、内容を理解し、保管してください。

 保護メガネ、聴力保護具と保護ヘルメットを着用してください。

 チェンソーは両手でしっかり保持してください。

 キックバックに関する安全上の指示とその対策を遵守してください。

 接続ケーブルまたは延長ケーブルが損傷している場合：電源プラグをコンセントから引き抜いてください。

 チェンソーを雨や湿気から守ってください。

### 4.2 用途

STIHL MSE 141 チェンソーは、建物周辺での薪切りや他の木材加工の作業に適しています。

チェーンソーは雨の中では使用しないでください。

移動範囲が電源/延長ケーブルによって制限されるため、このチェーンソーを使用できる枝払い(枝の切断)や伐倒作業は限られています。

## ▲ 警告

- 設計された目的以外でチェーンソーを使用すると、重傷または致命傷や器物損壊の原因になるおそれがあります。
  - ▶ チェーンソーは延長ケーブルと共に使用してください。
  - ▶ チェーンソーは、本取扱説明書に従って使用してください。

## 4.3 作業者

### ▲ 警告

- 適切な研修または指導を受けていない使用者は、チェーンソーの使用に伴う危険を認識または評価できません。使用者や他の人員が重傷または致命傷を負うおそれがあります。



▶ 取扱説明書をよくお読みいただき、ご理解ください。また取扱説明書は必ず保管してください。

- ▶ チェーンソーを譲渡するときは、必ず本取扱説明書を一緒に手渡してください。
- ▶ 使用者が以下の必要条件を満たしているか確認してください。
  - 十分な休息をとっている。
  - チェーンソーを使用するために適切な身体的・精神的状態にある。使用者の身体的、感覚的、または精神的機能が制限されている場合、その使用者は責任者の監督の下で、または責任者による指導とおりにのみ作業を行うことができます。
  - チェーンソーの使用に伴う危険を認識し、評価することができる。
  - 法定年齢に達しているか、国の規則や規制に従い、監督下で職業訓練を受けた。
  - 初めてチェーンソーを使用する前に、STIHL サービス店またはその他の経験豊富な使用者から指導を受けた。
  - アルコールまたは薬物の影響を受けていない。
- ▶ チェーンソーの使用が初めての場合、木挽き台や他の土台の上で丸太を鋸断する練習をしてください。
- ▶ ご不明な点があれば、STIHL サービス店にお問い合わせください。

## 4.4 衣服と装備

### ▲ 警告

- 長髪は作業中にチェーンソーに絡まる可能性があります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 長髪は肩にかからないようまとめてください。
- 作業中は物体が高速で飛散することがあります。それにより負傷するおそれがあります。



▶ 確実にフィットする保護メガネを着用してください。European Standard(欧州基準) EN 166 または日本の基準に従って試験され、ラベルが付けられている適切なメガネは、販売店から入手できます。

- ▶ STIHL 社では、フェイスシールドの使用をお勧めしています。
- ▶ 身体に合った長袖シャツを着用してください。
- 操作中は騒音が発生します。騒音は聴力に悪影響を及ぼすことがあります。
  - ▶ イヤープロテクターを着用してください。



- 落下物で頭部を負傷するおそれがあります。
  - ▶ 作業中に落下物による危険がある場合：ヘルメットを着用してください。



- 作業中は、粉塵が巻き上げられることがあります：巻き上げられた粉塵は気道を傷付け、アレルギー反応を引き起こすおそれがあります。
  - ▶ 粉塵が巻き上げられて周囲を漂っている場合：防塵マスクを着用してください。
- 不適切な衣服は樹木、茂み、またはチェーンソーに絡まる可能性があります。適切な保護装備を着用しないと、重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 体にぴったり合う衣服を着用してください。
  - ▶ スカーフや装身具を身に付けしないでください。
- 作業中、回転するソーチェーンに接触するおそれがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 切断防止機能付きの長ズボンを着用してください。
- 作業中に樹木でケガをするおそれがあります。清掃中または整備中にソーチェーンに接触するおそれがあります。それにより負傷するおそれがあります。
  - ▶ 丈夫な素材の手袋を着用してください。
- 不適切な靴を履くと、滑ったり、つまずいたりするおそれがあります。回転中のソーチェーン

に触れると、切り傷を負うことがあります。それにより負傷するおそれがあります。

- ▶ 切断防止機能付きのチェンソーブーツを着用してください。

## 4.5 作業エリアおよび周辺環境

### ▲ 警告

- 見物人、子供、動物は、チェンソーまたは飛散物の危険を認識していません。無知な見物人、子供、動物は重傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。

- ▶ 作業エリアに見物人、子供、動物を近づけないでください。
- ▶ チェンソーを無人のまま放置しないでください。
- ▶ 子供がチェンソーで遊ばないように注意してください。

- チェンソーは、防水構造ではありません。雨の中または湿っている場所で使用すると、感電することがあります。それにより負傷事故が生じ、チェンソーが損傷するおそれがあります。

- ▶ 雨の中または湿っている場所では使用しないでください。



- チェンソーの電気部品から火花が発生することがあります。引火または爆発が起きやすい環境下では、火花によって火災や爆発が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。

- ▶ 引火または爆発が起きやすい環境下では、作業を行わないでください。

## 4.6 安全に関する条件

### 4.6.1 チェンソー

チェンソーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- チェンソーが損傷していない。
- 電源ケーブル、延長ケーブル、各プラグが損傷していない。
- チェンソーが清潔で乾燥した状態になっている。
- チェンキャッチャーが損傷していない。
- チェンブレイキが正常に作動する。
- 操作部が正常に作動し、改造されていない。
- チェンの潤滑が正常に行われている。
- チェンスプロケットの摩耗の深さが 0.5 mm 未満。
- 本書内で推奨されているガイドバーとソーチェンの組み合わせが装着されている。
- ガイドバーとソーチェンが適切に装着されている。
- ソーチェンの張りが適正になっている。

- 本チェンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリだけが取り付けられている。
- アクセサリが適切に取り付けられている。
- オイルタンクが密閉されている。

### ▲ 警告

- 安全な状態にない場合、部品が正常に作動しなくなるか、安全装置が作動しなくなるおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。

- ▶ チェンソーは必ず損傷のない状態で使用してください。
- ▶ 損傷した電源ケーブル、延長ケーブル、電源プラグは絶対に使用しないでください。
- ▶ チェンソーが汚れたり濡れたりした場合は、清掃し、乾かしてください。
- ▶ チェンキャッチャーは必ず損傷のない状態で使用してください。
- ▶ チェンソーは絶対に改造しないでください。例外：本書内で推奨されているガイドバーとソーチェンの組み合わせの装着。
- ▶ 操作部が正常に作動しない場合、チェンソーを使用しないでください。
- ▶ 必ず本チェンソーモデル用に設計された STIHL 純正アクセサリを装着してください。
- ▶ ガイドバーとソーチェンは本取扱説明書に従って取り付けてください。
- ▶ アクセサリは、本取扱説明書またはアクセサリに付属する取扱説明書に従って装着してください。
- ▶ 絶対にチェンソーの開口部に物を差し込まないでください。
- ▶ 摩耗するか、損傷したラベルは交換してください。
- ▶ ご不明な点は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

### 4.6.2 ガイドバー

ガイドバーは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- ガイドバーが損傷していない。
- ガイドバーが変形していない。
- 溝の最小深さが維持されている。☐ 18.4
- バーレールからバリが取り除かれている。
- バーの溝が狭められたり、広がったりしていない。

### ▲ 警告

- ガイドバーが安全な状態にないときは、ソーチェンは適切に支持されず、正常に導かれなくなります。回転するソーチェンがガイドバーから飛び出すおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
- ▶ ガイドバーは必ず損傷のない状態で使用してください。

- ▶ 溝の深さが最小深さ以下の場合：新品ガイドバーを取り付けてください。
- ▶ 毎週、ガイドバーからバリを取り除いてください。
- ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店にご連絡ください。

### 4.6.3 ソーチェン

ソーチェンは、以下の条件が満たされている場合、安全な状態です：

- チェンが損傷していない。
- チェンが適切に目立てされている。
- カッターのサービスマークがまだ見えている。

## ▲ 警告

- 部品が安全要件を満たしていない場合は、正常に作動しなくなるか、安全装置が作動しなくなるおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ ソーチェンは必ず損傷のない状態で使用してください。
  - ▶ チェンを適切に目立てしてください。
  - ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

## 4.7 操作用

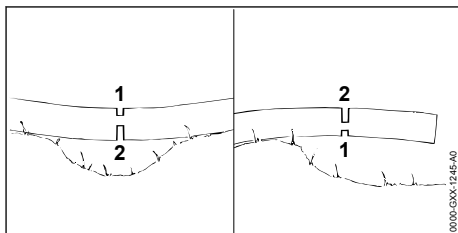
### 4.7.1 鋸断

## ▲ 警告

- 常に、必要な時に声を出せば、
  - ▶ 人が助けに来ることができる範囲内で作業してください。
- 特定の条件下では、ユーザーは作業に集中できなくなることがあります。ユーザーがチェンソーの制御を失ったり、つまずいたり、転倒したりし、重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 冷静かつ慎重に作業を行ってください。
  - ▶ 明るさと視界が不十分な場合：チェンソーを使用しないでください。
  - ▶ チェンソーは一人で操作してください。
  - ▶ 肩の高さより上にあるものは切断しないでください。
  - ▶ 障害物に注意してください。
  - ▶ 機械の操作中は地面に立ち、バランスを保ちます。高所での作業が必要な場合：リフトバケットまたは安全な台を使用してください。
  - ▶ 疲れたら休息をとってください。
- 回転するソーチェンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 回転するソーチェンには触れないでください。
  - ▶ ソーチェンが障害物に挟まった場合：チェンソーのスイッチを切り、チェンブレイ

キを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。挟まった障害物を取り除きます。

- 回転中のチェンは高温になり、膨張します。注油が不十分で、張り具合を調整しない状態では、チェンがガイドバーから外れるか、破断することがあります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊するおそれがあります。
  - ▶ 専用チェンオイルを使用してください。
  - ▶ 切断作業中は、定期的にチェンの張りを点検します。チェンの張りが不十分な場合：チェンを張ります。
- 操作中にチェンソーの動作が変化するか、異常を感じたときは、機器がもはや安全な状態ない可能性があります。それにより重傷を負ったり、器物が損壊するおそれがあります。
  - ▶ チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜き、STIHL サービス店に連絡してください。
- 作業中、チェンソーは振動することがあります。
  - ▶ 手袋を着用してください。
  - ▶ 定期的に休憩をとります。
  - ▶ 血行不良の兆候が見られたときは：医師の診断を受けてください。
- 回転するチェンが硬い物体に接触すると、火花が発生することがあります。引火しやすい場所では、火花によって火災が生じるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
  - ▶ 引火しやすい場所では、作業を行わないでください。
- トリガースイッチを放してもソーチェンはしばらく回転し続ける点に注意してください。回転するソーチェンでケガをすることがあります。それにより重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンが完全に停止するまで待ちます。



## ▲ 警告

- 張力がかかっている樹木の切断中にガイドバーが挟まれることがあります。ユーザーがチェンソーの制御を失い、重傷を負うおそれがあります。

- ▶ まず圧縮がかかっている側 (1) に負荷軽減カットを入れ、次に張力がかかっている側 (2) を玉切りします。

#### 4.7.2 枝払い

### ▲ 警告

- 最初に倒木の下端で枝払いをすると、倒木は地上で枝によって支えられなくなります。切断作業中に倒木が動くおそれがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 倒木下側の太い枝は、切り込んだ後にのみ落としてください。
  - ▶ 枝払いの際は、幹の上に立たないでください。
- 枝払い中に枝が地面に落下することがあります。それにより転倒事故や落下事故が生じたり、重傷を負ったりするおそれがあります。
  - ▶ 樹木の根元から先端に向かって枝払いします。

#### 4.7.3 伐倒

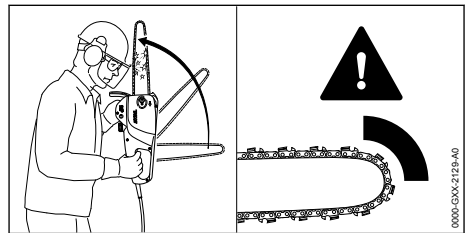
### ▲ 警告

- 経験のない使用者は、伐倒の危険を見極めることができません。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ▶ 使用者は伐倒技術の関連知識を身に付け、伐倒作業の経験を積む必要があります。
  - ▶ ご不明な点は経験豊富なエキスパートに尋ね、適切な伐倒技術を見極めてください。
- 伐倒作業中に樹木や枝が見物人や物の上に落下することがあります。落下物が大きくなればなるほど、重傷や致命傷を負う危険が増します。物的損害につながるおそれがあります。
  - ▶ 木が倒れる場所が明確になるように伐倒方向を決めます。
  - ▶ 見物人、子供、動物は作業エリアから樹高の2.5倍の範囲内に入らせないでください。
  - ▶ 伐倒前に樹頭から折れた枝や枯れた枝を取り除いてください。
  - ▶ 樹頭から曲がった枝や枯れた枝を取り除くことができないときは、経験豊富なエキスパートに相談し、適切な伐倒技術を見極めてください。
  - ▶ 樹頭や周辺木の樹頭を観察し、落下する枝に近付かないでください。
- 樹木が倒れるときに、幹が裂けたり、作業者の方向に跳ね返ったりするおそれがあります。それにより重傷や致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 樹木後ろ側の斜め方向に退避路を決めてください。
  - ▶ 退避路を後退しながら倒れる樹木を観察します。

- ▶ 斜面を後ろ向きに下らないでください。
- 作業エリアと退避路に障害物があると、作業者の妨げになることがあります。つまり倒れるおそれがあります。それにより重傷や致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 作業エリアと退避路から障害物をすべて取り除きます。
- つるや追いつぶの切断が早すぎると、伐倒方向を制御できなくなるか、樹木が早期に倒れることがあります。重傷や致命傷を負ったり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ▶ つるに切り込んだり、つるを切断したりしないでください。
  - ▶ 追いつぶの切断は最後に行います。
  - ▶ 樹木が想定よりも早く倒れ始めた場合は、伐倒作業を中止し、退避路に沿って避難します。
- 回転するチェーンがバーノーズの上部 1/4 で硬い伐倒用クサビに接触し、急停止すると、キックバックが起こることがあります。重傷や致命傷を負う危険があります。
  - ▶ アルミニウム製またはプラスチック製の伐倒用クサビを使用してください。
- 樹木が地面まで完全に倒れなかった場合や別の樹木に引っ掛かった場合は、制御しながら作業を完了させることはできません。
  - ▶ 伐倒作業を中止し、ケーブルウィンチや適切な車両で樹木を地面に引き倒してください。

## 4.8 反発力

### 4.8.1 キックバック

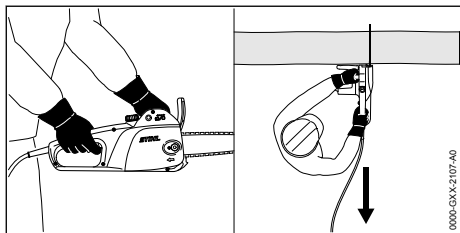


キックバックは、以下の理由で生じることがあります：

- ガイドバー先端上部 1/4 の部分で回転するソーチェーンが硬い物体に触れ、急停止した。
- 回転するソーチェーンがバー先端部に挟まった。

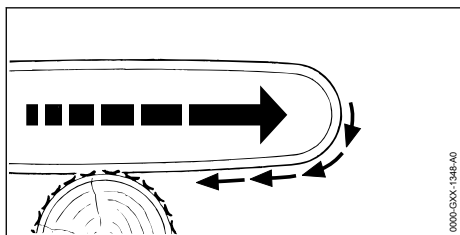
チェンブレイキでキックバックの発生を防ぐことはできません。

## ▲ 警告



- キックバックが生じると、チェンソーがオペレーターの方向に跳ね上がることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。
  - ▶ 体を常にカッティングアタッチメントの面から離してください。
  - ▶ 機械は本取扱説明書に従って操作してください。
  - ▶ バーの先端上部 1/4 部分を使用して切断しないでください。
  - ▶ 必ず適切に目立てをし、張り具合を調整をしたソーチェンで切断します。
  - ▶ キックバック低減ソーチェンを使用してください。
  - ▶ 先端部の径が小さいガイドバーを使用してください。
  - ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

### 4.8.2 プルイン



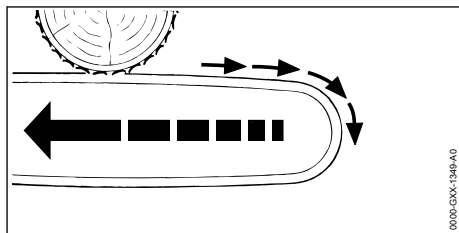
バーの下部を切断に使用すると、ソーが作業者から遠ざかる方向に引かれます。

## ▲ 警告

- 回転するチェンが硬い物体に当たったり、急に挟まれたりすると、チェンソーが作業者から遠ざかる方向に唐突に引っ張られることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。
  - ▶ チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
  - ▶ ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。

- ▶ バンパースパイクを適切にかみ合わせます。
- ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

### 4.8.3 プッシュバック



バーの上部を切断に使用すると、ソーが作業者の方向に押し戻されます。

## ▲ 警告

- 回転するチェンが硬い物体に当たったり、急に挟まれたりすると、チェンソーが作業者の方に唐突に押し戻されることがあります。チェンソーの制御を失い、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンソーを両手でしっかり保持します。
  - ▶ チェンソーは取扱説明書に従って操作してください。
  - ▶ ガイドバーは切り口の中でねじらないでください。
  - ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。

### 4.9 電源への接続

以下の理由により、生きている (電流が流れている) コンポーネントとの接触が生じるおそれがあります：

- 電源ケーブルまたは延長ケーブルが損傷している。
- 電源ケーブルのプラグまたは延長ケーブルが損傷している。
- 壁コンセントが正しく設置されていない。



## ▲ 危険

- 生きている (電流が流れている) 部品との接触は感電の原因になることがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ 電源ケーブル、延長ケーブル、プラグが損傷していないことを点検してください。



電源ケーブルまたは延長ケーブルが損傷している場合：  
 ▶ 損傷している部分に触らないでください。  
 ▶ プラグを壁コンセントから抜いてください。



- ▶ 電源ケーブル、延長ケーブル、またはそれらのプラグは、絶対に濡れた手で触らないでください。
- ▶ 電源ケーブルまたは延長ケーブルのプラグを適切に設置され、アース接点が付属し、ヒューズで保護された壁コンセントに差し込みます。
- ▶ チェンソーは漏電遮断器 (30 mA、30 ms) を介して接続してください。
- 損傷した、または不適切な延長ケーブルは、感電の原因になることがあります。その結果、重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ ワイヤゲージ(直径)が適切な延長ケーブルを使用してください、
  - ▶ 屋外用として承認された防滴型の延長ケーブルを使用してください。
  - ▶ チェンソーの電源ケーブルと同一仕様の延長ケーブルを使用してください、 18.2。

## ▲ 警告

- 操作中の不適切な線間電圧または周波数によってチェンソーに過電圧が発生するおそれがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。
  - ▶ 線間電圧と周波数が、チェンソーの定格ラベルに記載されているデータと一致することを確認してください。
- 複数のチェンソーを1つの壁コンセントに接続すると、操作中に電源ケーブルに過負荷が生じることがあります。ケーブルが過熱し火災の原因となるおそれがあります。それにより重傷または致命傷を負ったり、器物が損壊したりすることがあります。
  - ▶ 各チェンソーはそれぞれ別の壁コンセントに接続してください。
  - ▶ 複数のチェンソーを1つの壁コンセント内の複数のソケットに接続しないでください。
- 不注意に敷設した電源ケーブルまたは延長ケーブルは損傷したり、つまずく原因になったりすることがあります。それにより負傷事故が生じ、電源ケーブルまたは延長ケーブルが損傷するおそれがあります。
  - ▶ 電源ケーブルと延長ケーブルは、回転するチェンソーに接触しないように敷設してください。
  - ▶ つまずかないよう、電源ケーブルと延長ケーブルは適切に敷設し、危険を知らせる印を付けてください。
  - ▶ 両ケーブルは、張力が加わったり、からまつたりしない位置に配置してください。
  - ▶ 両ケーブルは、損傷したり、折れ曲がったり、挟まったり、擦り切れたりしない位置に配置してください。

- ▶ 両ケーブルは熱、オイル、化学薬品から保護してください。
- ▶ 両ケーブルは、乾いた面で使用してください。
- 操作中に延長ケーブルは熱くなります。熱を逃がすことができないと、火災が生じるおそれがあります。
  - ▶ ケーブルリール使用時：完全に引き出してから延長ケーブルを使用してください。

## 4.10 運搬

### ▲ 警告

- チェンソーは運搬中に倒れたり、ずれたりするおそれがあります。その結果、負傷したり、器物が損壊したりするおそれがあります。
  - ▶ 延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜いてください。
  - ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルから外してください。
  - ▶ チェンブレイキを掛けます。
  - ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
  - ▶ 転倒したり、ずれたりしないよう、チェンソーを固定ストラップまたはネットで固定します。

## 4.11 保管

### ▲ 警告

- 子供はチェンソーの危険を認識/認知できず、重傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルから外してください。
  - ▶ 延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜いてください。
  - ▶ チェンブレイキを掛けます。
  - ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
  - ▶ チェンソーは子供の手の届かないところに保管してください。
- 湿気によってチェンソーの電気接点や金属製部品が腐食することがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。
  - ▶ チェンソーは、清潔な乾いた状態で保管してください。

## 4.12 清掃、整備、修理

### ▲ 警告

- 壁コンセントからプラグを抜かないと、清掃、メンテナンス、修理時にチェンソーが偶発的に始動するおそれがあります。それにより重傷を負ったり、物的損害につながったりするおそれがあります。

- ▶ 延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜いてください。
- ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルから外します。
- ▶ チェンブレーキを掛けます。
- 刺激の強い洗浄剤、高圧洗浄機、尖った物体は、チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを損傷させるおそれがあります。チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを適切に清掃しないと、部品が正常に機能しなくなるか、安全装置が働かなくなることがあります。それにより重傷を負うことがあります。
  - ▶ チェンソー、ガイドバー、ソーチェンは本取扱説明書に従って清掃してください。
- チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを適切に整備/修理しないと、コンポーネントが正常に機能しなくなるか、安全装置が作動しなくなるおそれがあります。重傷または致命傷を負うおそれがあります。
  - ▶ チェンソーの修理を試みないでください。
  - ▶ 電源ケーブルに不具合や損傷が生じている場合、STIHL サービス店に電源ケーブルの交換を依頼してください。
  - ▶ チェンソーに整備や修理が必要なときは、STIHL サービス店にサポートを依頼してください。
  - ▶ ガイドバーとソーチェンの整備や修理時は、本取扱説明書に従ってください。
- ソーチェンの清掃中や整備中に、鋭利なカタッパでケガをする場合があります。それにより負傷するおそれがあります。
  - ▶ 耐切創手袋を着用してください。

## 5 チェンソーの使用準備

### 5.1 チェンソーの使用準備

作業を開始する前に、以下を行ってください：

- ▶ 以下のコンポーネントが安全な状態になっているか確認します：
  - チェンソーと電源ケーブル 4.6.1
  - ガイドバー 4.6.2
  - ソーチェン 4.6.3
- ▶ チェンソーの汚れを取り除きます。 14.1
- ▶ バーとチェンを取り付けます。 6.1.1
- ▶ ソーチェンを張ります。 6.2
- ▶ チェンオイルを給油します。 6.3
- ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルに差し込み、延長ケーブルのプラグを使いやすい壁コンセントに差し込みます。
- ▶ チェンブレーキを点検します。 9.4
- ▶ 操作部を点検します。 9.5
- ▶ チェンの潤滑状態を点検します。 9.6
- ▶ 上記の作業を行うことができない場合は：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。

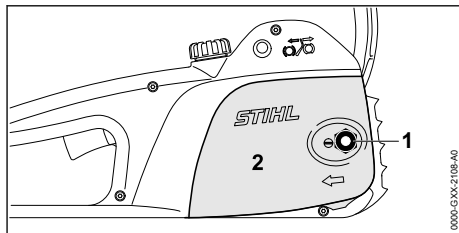
## 6 チェンソーの組み立て

### 6.1 バーとチェンの取り付け/取り外し

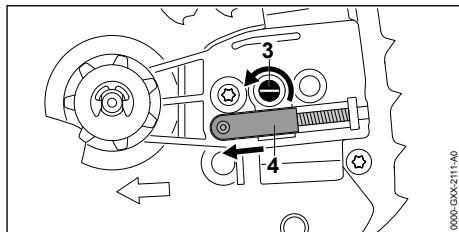
#### 6.1.1 バーとチェンの取り付け

チェンスプロケットと共に使用可能なバーとチェンの組み合わせは、仕様書 (19) に記載されています。

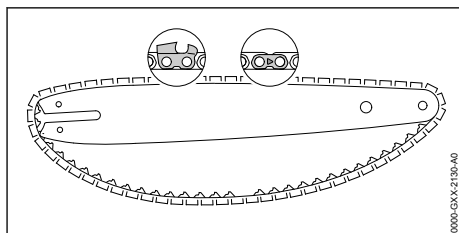
- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。



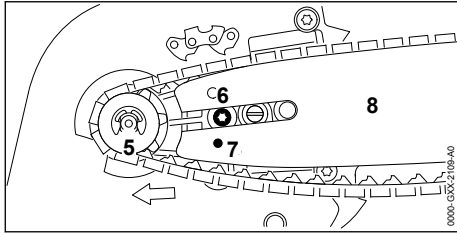
- ▶ ナット (1) を取り外します。
- ▶ チェンスプロケットカバー (2) を取り外します。



- ▶ テンショナーズライド (4) がハウジングの左端に当たるまで、テンショニングスクリュー (3) を反時計回りに回転させます。



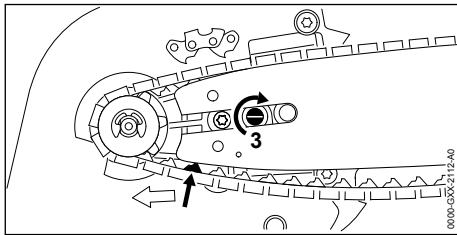
- ▶ バー上部のタイストラップの矢印が回転方向を向くようにして、チェンをバーの溝に取り付けます。



- ▶ ガイドバーをチェンと共にソーに取り付け、以下を点検します：
  - チェンのドライブリンクがチェンスプロケット (5) の歯にはまっている。
  - スクリューの頭部 (6) がガイドバー (8) 内のスロットに入っている。
  - テンショナーズライド (4) のペグがガイドバー (8) の穴 (7) にはまっている。

ガイドバー (8) の向きは、どちらでも構いません。ガイドバー (8) 上のロゴも上下逆になる場合があります。

- ▶ チェンブレイキを解除します。



- ▶ チェンがたるみなしにバーにフィットするまで、テンショニングスクリュー (3) を時計回りに回転させます。ドライブリンクがバーの溝とかみ合っているか確認します。ガイドバーとチェンをソーに位置決めます。
- ▶ チェンソーとぴったり重なるようにスプロケットカバー (2) を取り付けます。
- ▶ ナット (1) を取り付け、締め付けます。

### 6.1.2 バーとチェンの取り外し

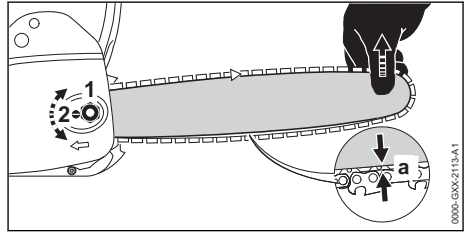
- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ ナットを取り外します。
- ▶ スプロケットカバーを取り外します。
- ▶ テンショニングスクリューを反時計回りに止まるまで回します。
- この段階でチェンが緩みます。
- ▶ バーとチェンを取り外します。

## 6.2 ソーチェンの張り方

ソーチェンは鋸断作業中に伸縮します。その結果、チェンの張り具合が変化します。作業中はチ

ェンの張り具合を定期的に点検し、必要に応じて再調整してください。

- ▶ チェンソーの電源を切り、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。



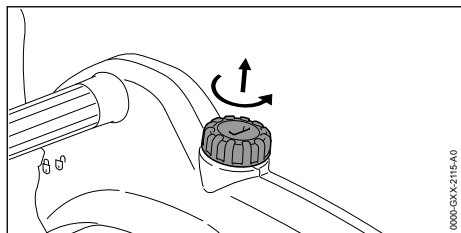
- ▶ ナット (1) を緩めます。
- ▶ チェンブレイキを解除します。
- ▶ バーノーズを持ち上げ、バー中央のチェンのたるみ 'a' が 1-2 mm になるまでテンショニングスクリュー (2) を時計回りにまわします。
- ▶ カービングガイドバーを使用する場合は、バー下側のドライブリンクが半分だけ露出するまでテンショニングスクリュー (2) を時計回りにまわします。
- ▶ ハンドガードをハンドルバーの方向に引き戻し、その位置で保持します。
- ▶ チェンをバーに沿って二本の指で引きます。
  - ▶ チェンをバーに沿って指で引きづらいう場合は、チェンの張りを再調整してください。
- ▶ バーノーズを持ち上げたままナット (1) をしっかりと締め付けます。
- ▶ バー中央のチェンのたるみ 'a' が 1-2 mm になっていない場合は、チェンの張りを再調整します。
- ▶ カービングバーを使用し、バー下側のドライブリンクの露出が半分未満の場合は、チェンの張りを再調整します。

## 6.3 ソーチェン粘着オイルの給油

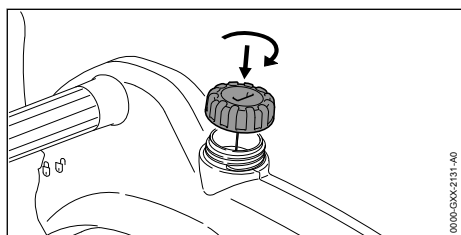
ソーチェン粘着オイルは、回転するソーチェンを潤滑し、冷却します。

STIHL では、STIHL ソーチェン粘着オイル、またはチェンソー用として認可されたその他のソーチェン粘着オイルを使用することをお勧めしています。

- ▶ チェンソーのスイッチをオフにし、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルの電源プラグをコンセントから引き抜きます。
- ▶ オイルタンクキャップが上を向くように、チェンソーを平らな場所に置きます。
- ▶ オイルタンクキャップの周辺を湿らせた布で清掃します。



- ▶ 適切な工具を使用してオイルタンクキャップを反時計回りに回して、キャップを外せるようになります。
- ▶ オイルタンクキャップを外します。
- ▶ ソーチェーン粘着オイルは、こぼれないように注意しながら、オイルタンクが満杯にならないように充填します。



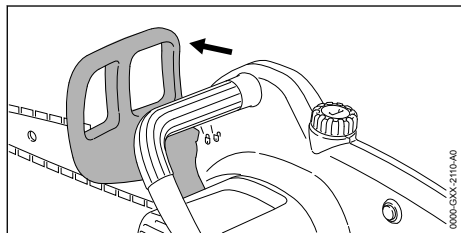
- ▶ オイルタンクキャップをオイルタンクに装着します。
- ▶ 適切な工具を使用してオイルタンクキャップを時計回りに回して、しっかりと締め付けます。オイルタンクが閉まりました。

## 7 チェンブレイキを掛ける/解除する

### 7.1 チェンブレイキを掛ける

本チェーンには、チェンブレイキが搭載されています。

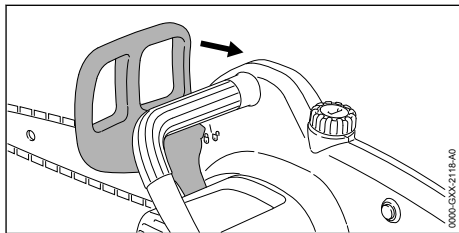
チェンブレイキは、強いキックバックが起きると前ハンドガードの慣性によって作動します。または、オペレーターが掛けることができます。



- ▶ ハンドガードを左手で前ハンドルから離れる方向に押します。

カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。ハンドガードは、記号(⊕)の方向に向きます。チェンブレイキが掛かります。

### 7.2 チェンブレイキの解除

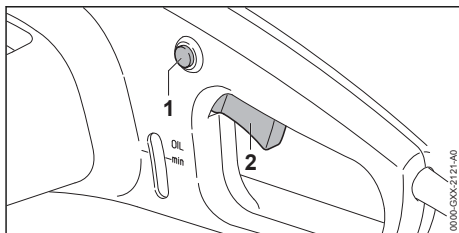


- ▶ ハンドガードを左手でハンドルバーの方向に引きます。カチッという音がしてハンドガードがかみ合います。ハンドガードは、記号(⊖)の方向に向きます。チェンブレイキが解除されます。

## 8 チェンソーのオン/オフ切り替え

### 8.1 電源を入れる

- ▶ 右手でコントロールハンドルを握り、チェーンを保持します - コントロールハンドルに親指をかけてください。
- ▶ チェンブレイキを解除します。
- ▶ 左手で前ハンドルを握り、チェーンを保持します - ハンドルに親指をかけてください。



- ▶ ロックアウトボタン (1) を親指で押したままにします。
- ▶ トリガースイッチ (2) を人差し指で引いたままにします。モーターが加速し、チェーンが回転します。

### 8.2 電源を切る

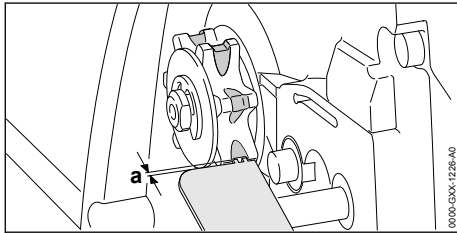
- ▶ トリガースイッチとロックアウトレバーを放します。チェーンの回転が止まります。

- ▶ チェンが回転し続ける場合：チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜き、STIHL サービス店に連絡してください。  
チェンソーが故障しています。

## 9 チェンソーの点検

### 9.1 チェンスプロケットの点検

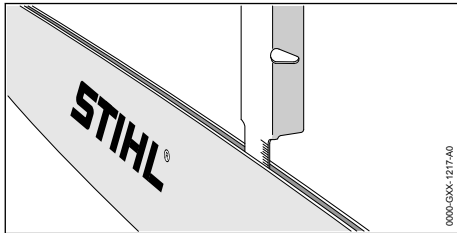
- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ チェンブレイキを解除します。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り外します。
- ▶ パーとチェンを取り外します。



- ▶ STIHL ゲージを使用してsprocket上の摩耗マークを点検します。
- ▶ 摩耗マークが  $a = 0.5 \text{ mm}$  よりも深い場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。  
チェンスプロケットを交換してください。

### 9.2 ガイドバーの点検

- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ ソーチェンとガイドバーを取り外します。

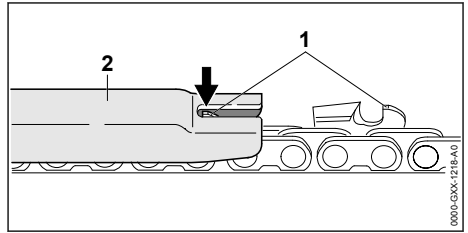


- ▶ STIHL ファイリングゲージの目盛でバーの溝の深さを測定します。
- ▶ 以下のいずれかが生じているときは、新品ガイドバーを取り付けてください：
  - ガイドバーが損傷している。
  - 測定されたバーの深さが、規定の最小深さ以下になっている (18.4)。
  - バーの溝が狭められているか、広がっている。

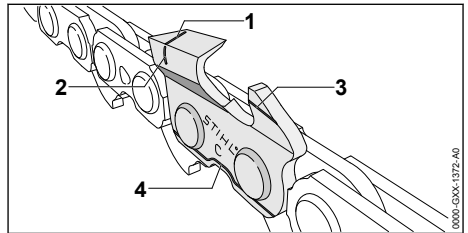
- ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店にご連絡ください。

### 9.3 ソーチェンの点検

- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。



- ▶ STIHL ファイリングゲージ (2) を使用してデプスゲージ (1) の高さを点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ▶ デプスゲージ (1) がファイリングゲージ (2) から突き出る場合：デプスゲージ (1) を低くします。15.3



- ▶ カッター上のサービスマーク (1-4) が目視できるか確認します。
- ▶ カッター上のサービスマークのいずれかが目視できない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。
- ▶ STIHL ファイリングゲージを使用し、全カッターで  $30^\circ$  の目立て角度が維持されているか点検します。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ▶  $30^\circ$  の目立て角度を維持しなかった場合：ソーチェンを再び目立てしてください。
- ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店にご連絡ください。

### 9.4 チェンブレイキのテスト

- ▶ チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。

## 警告

- チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
  - ▶ 丈夫な素材の手袋を着用してください。
- ▶ ガイドバーに沿ってチェンを手で引きます。バーに沿ってチェンを手で引けない場合は、チェンブレイキは働いています。
- ▶ バーに沿ってチェンを手で引ける場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。チェンブレイキに不具合が生じています。

## 9.5 操作部の点検

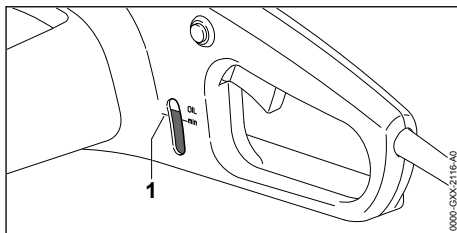
### ロックアウトボタンとトリガーレバー

- ▶ チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ ロックアウトボタンを押さずにトリガーレバーを引いてみます。
- ▶ トリガーを引くことができる場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。ロックアウトボタンが故障しています。
- ▶ ロックアウトボタンを押したまま保持します。
- ▶ トリガーを引き、指を放します。
- ▶ トリガーが円滑に動かないか、アイドル位置に戻らない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。トリガーが故障しています。

### 電源を入れる

- ▶ 延長ケーブルのプラグを壁コンセントに差し込みます。
- ▶ チェンブレイキを解除します。
- ▶ ロックアウトボタンを押したまま保持します。
- ▶ トリガーを引き、保持します。チェンが回転します。
- ▶ トリガーを放します。チェンの回転が止まります。
- ▶ チェンが回転し続ける場合：チェンブレイキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜き、STIHL サービス店に連絡してください。チェンソーが故障しています。

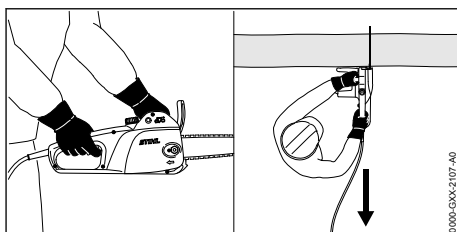
## 9.6 チェンオイルの吐出点検



- ▶ 点検用窓でオイルレベルを点検します。
- ▶ レベルが“OIL min” (1) マークよりも下の場合：チェンオイルを給油します。タンク内のチェンオイルが不足しています。
- ▶ 延長ケーブルのプラグを壁コンセントに差し込みます。
- ▶ チェンブレイキを解除します。
- ▶ ガイドバーを明るい面にかざします。
- ▶ チェンソーのスイッチを入れます。チェンからチェンオイルが飛び散り、明るい面上で確認できます。チェンの潤滑が正常に行われている。
- ▶ チェンオイルが確認できない場合：
  - ▶ チェンオイルを給油します。
  - ▶ チェンの潤滑状態を再点検します。
  - ▶ 明るい面でチェンオイルが依然として確認できない場合：チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。チェン潤滑機能に不具合が生じています。

## 10 チェンソーの操作

### 10.1 チェンソーの保持と制御



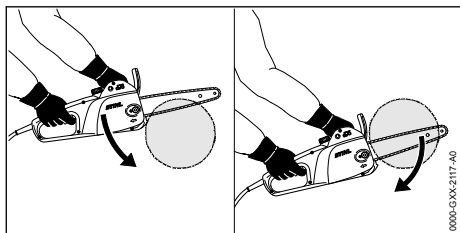
- ▶ 左手で前ハンドルを握り、右手でコントロールハンドルを握り、チェンソーを保持し、制御します。左手の親指を前ハンドルにかけ、右手の親指をコントロールハンドルにかけてください。

## 10.2 切断作業



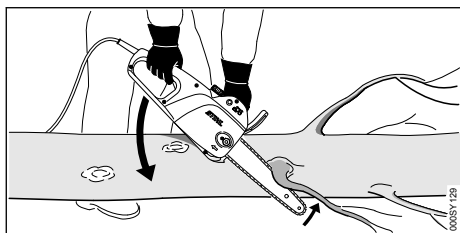
**警告**

- キックバックが生じると、チェンソーがオペレーターの方向に跳ね上がることがあります。それにより重傷または致命傷を負うおそれがあります。
    - ▶ 常にチェンを最高速で作動させて切断してください。
    - ▶ バーの先端上部 1/4 部分を使用して切断しないでください。
- 
- ▶ チェンを最高速で作動させ、ガイドバーを垂直にして切断を開始します。

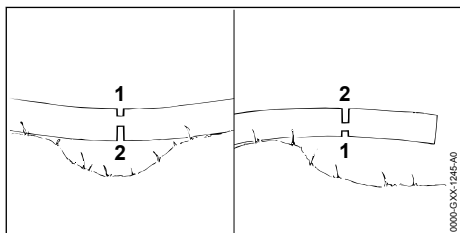


- ▶ バンパースパイクを当て、それを支点として利用します。
- ▶ バーの全幅を木材内へ導き、必要に応じてバンパースパイクをずらしします。
- ▶ 切断の最後の部分では、チェンソーの重量を支えてください。

## 10.3 枝払い



- ▶ チェンソーを木材の上で支えます。
- ▶ チェンを最高速で作動させ、枝に接触させながらバーを上方向に回転させます。
- ▶ バー上部で枝を切断します。

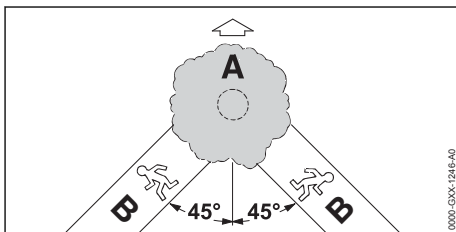


- ▶ 枝に張力が加わっている場合：圧縮側に負荷軽減カット(1)を入れた後、張力側から玉切り(2)を行います。

## 10.4 樹木の伐倒

### 10.4.1 伐倒方向と退避路の決定

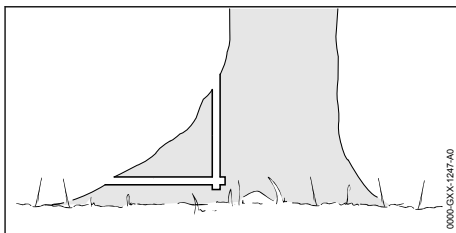
- ▶ 木が倒れる場所が確実になるように、伐倒方向を決めます。



- ▶ 退避路 (B) を決める際には、以下の点を遵守/確認します：
  - 退避路 (B) が伐倒方向 (A) に対して 45° になるようにする。
  - 退避路 (B) から障害物をすべて取り除く。
  - 樹頭を観察することができる。
  - 斜面では、傾斜に平行になるように退避路 (B) を設ける。

### 10.4.2 幹周辺の作業区域の準備

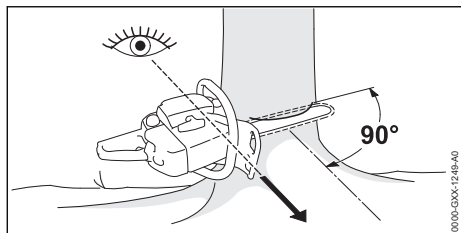
- ▶ 幹周辺の作業区域から障害物を取り除きます。
- ▶ 幹周辺から茂みを取り除きます。



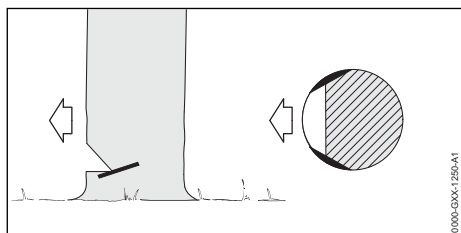
- ▶ 太く、健全な板根がある場合：まず垂直に切断し、次に水平に切断し、切り出された板根を取り除きます。

### 10.4.3 受け口切り

- ▶ 受け口によって伐倒方向が決まります。受け口の作成に関する、国で定められた基準を遵守してください。

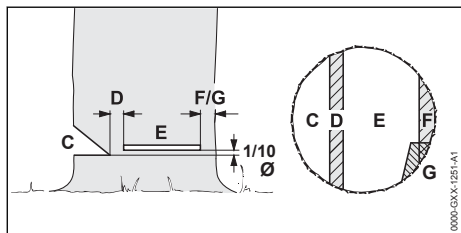


- ▶ 受け口が伐倒方向に対して直角になり、チェンソーが地面に近くなるように位置決めします。
- ▶ 水平に切り込みを入れます。
- ▶ 水平切断面まで45°の角度で切断します。



- ▶ 健全で長い繊維の樹木の場合は、根張り切断時に以下の点を遵守してください。
  - 両側で同じ寸法だけ切断する。
  - 受け口下部と同じ高さで切断する。
  - 幹の直径の1/10を切断幅とする。
 上記を遵守すると、伐倒時に幹は裂けません。

#### 10.4.4 伐倒の基本情報



##### C 伐倒受け口

伐倒受け口によって伐倒方向が決まります。

##### D つる

つるは、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。つるの幅は、幹の直径の1/10です。

##### E 追い口

樹木は追い口を用いて伐倒します。追い口は幹の直径の1/10(最低3cm)、受け口下側よりも上部に設けます。

#### F 追いつる(安定化用)

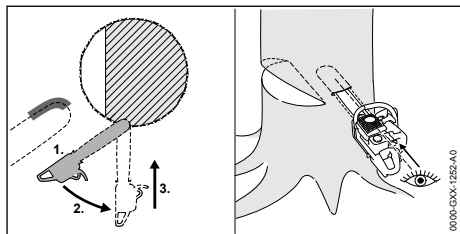
追いつるは樹木を支え、急に倒れるのを防ぎます。追いつるの幅は、幹の直径の1/10から1/5です。

#### J 追いつる(保持用)

追いつるは樹木を支え、急に倒れるのを防ぎます。追いつるの幅は、幹の直径の1/10から1/5です。

#### 10.4.5 突っ込み切り

突っ込み切りは、伐倒に必要な技術です。



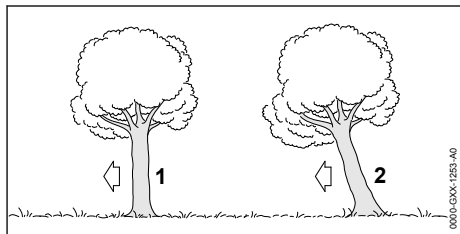
- ▶ チェンを最高速で作動させながら、ガイドバーの先端下部で切断を開始します。
- ▶ 切り目の深さがガイドバー幅の2倍になるまで切り込みます。
- ▶ ソーを突っ込み切り位置に差し込みます。
- ▶ 突っ込み切りを行います。

#### 10.4.6 適切な伐倒方法の選択

伐倒方法の選択は、以下の要因によって決まります：

- 樹木の自然な傾き
- 樹木の枝ぶり
- 樹木の損傷程度
- 樹木の健康状態
- 樹木に雪が積もっている場合：雪の量
- 傾斜方向
- 風向きと風速
- 付近の樹木(存在する場合)

こうした要因は、状況によって異なります。本取扱説明書では、2種類だけ取り上げ、解説します。



##### 1 標準木

標準木は垂直に立ち、樹頭が揃っています。



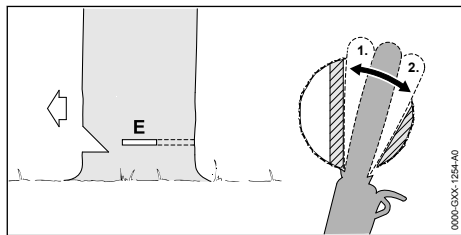
## 2 傾木

傾木は斜めに立ち、樹頭が伐倒方向を向いています。

### 10.4.7 細い幹の標準木の伐倒

標準木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも小さい場合に設けます。

▶ 大声で周囲に警告します。

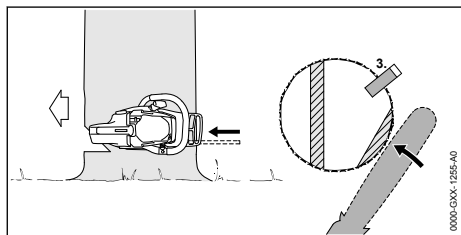


▶ 幹の反対側に抜けるまで、追い口を突っ込み切りします (■ 10.4.5)。

▶ つるの後ろにバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。

▶ つるの方向に追い口を広げます。

▶ 追いづるの方向に追い口を広げます。



▶ 伐倒用クサビを差し込みます。伐倒用クサビは、幹の直径と追い口の幅と一致する必要があります。

▶ 大声で周囲に警告します。

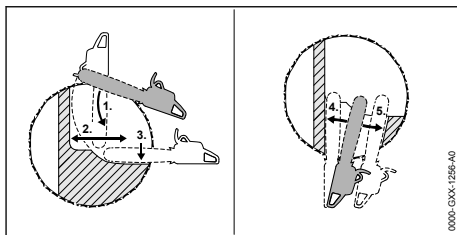
▶ 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、追い口と同じ高さで外側から水平に追いづるを切断します。

樹木が倒れます。

### 10.4.8 太い幹の標準木の伐倒

標準木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも大きい場合に設けます。

▶ 大声で周囲に警告します。



▶ 追い口と同じ高さでバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。

▶ ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。

▶ つるの方向に追い口を広げます。

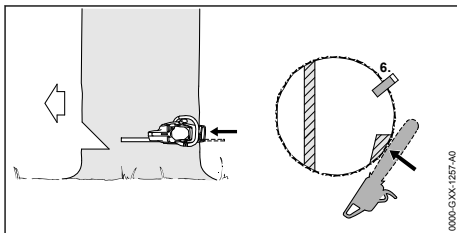
▶ 追いづるの方向に追い口を広げます。

▶ 樹木の反対側に移動します。

▶ 同じ高さで追い口を突っ込み切りします。

▶ つるの方向に追い口を広げます。

▶ 追いづるの方向に追い口を広げます。



▶ 伐倒用クサビを差し込みます。伐倒用クサビは、幹の直径と追い口の幅と一致する必要があります。

▶ 大声で周囲に警告します。

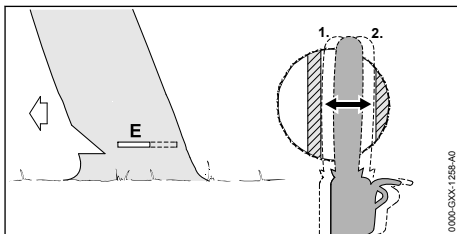
▶ 腕を伸ばした状態でチェンソーを保持し、追い口と同じ高さで外側から水平に追いづるを切断します。

樹木が倒れます。

### 10.4.9 細い幹の傾いた木の伐倒

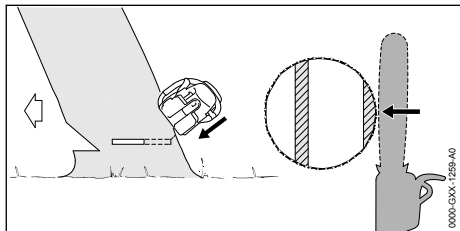
傾いた木は、追い口と追いづるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さよりも小さい場合に設けます。

▶ 大声で周囲に警告します。



▶ 幹の反対側に抜けるまで、追い口を突っ込み切りします (■ 10.4.5)。

- ▶ つるの方向に追い口を広げます。
- ▶ 追いつるの方向に追い口を広げます。

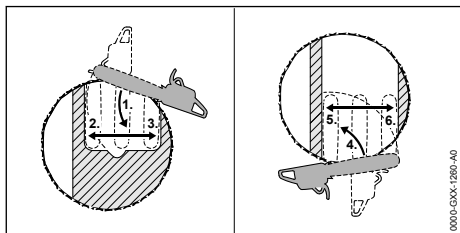


- ▶ 大声で周囲に警告します。
- ▶ 腕を伸ばした状態でチェーンソーを保持し、外側から下向きに追いつるを切断します。樹木が倒れます。

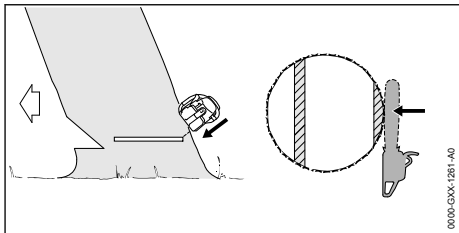
#### 10.4.10 太い幹の傾いた木の伐倒

傾いた木は、追い口と追いつるで伐倒します。この追い口は、樹木の直径がガイドバーの長さより大きい場合に設けます。

- ▶ 大声で周囲に警告します。



- ▶ 追い口と同じ高さで追いつるの後ろ側にバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- ▶ ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。
- ▶ つるの方向に追い口を広げます。
- ▶ 追いつるの方向に追い口を広げます。
- ▶ 樹木の反対側に移動します。
- ▶ 追い口と同じ高さでつるの後ろ側にバンパースパイクをかみ合わせ、それを支点として利用します。
- ▶ ソーを水平に保持し、できるだけ深く追い口を設けます。
- ▶ つるの方向に追い口を広げます。
- ▶ 追いつるの方向に追い口を広げます。

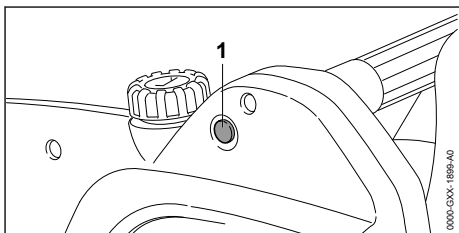


- ▶ 大声で周囲に警告します。
- ▶ 腕を伸ばした状態でチェーンソーを保持し、外側から下向きに追いつるを切断します。樹木が倒れます。

### 10.5 過負荷保護機能のリセット

本チェーンソーには過負荷保護機能が搭載されています。機械的な過負荷が生じると、過負荷保護機能がチェーンソーの電源供給を遮断します。それによりチェーンソーの損傷を防ぎます。

- ▶ ガイドバーを切り口から引き抜きます。
- ▶ 数分待ちます。チェーンソーを冷ます必要があります。



- ▶ リセットボタン (1) を押します。リセットボタン (1) が定位置で保持されます。回路が遮断状態から復旧します。
- ▶ リセットボタン (1) が定位置で保持されない場合：数分待ち、再びリセットボタン (1) を押してください。チェーンソーが十分に冷却されていません。
- ▶ チェーンソーのスイッチをオンにし、最高速で15秒程度作動させます。この作業でモーターが冷却され、過負荷保護機能が再び働くのを大幅に遅らせることができます。

## 11 作業後

### 11.1 作業後

- ▶ チェーンソーのスイッチを切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ チェーンソーのプラグを延長ケーブルから外してください。
- ▶ チェーンソーを清掃します。
- ▶ バーとチェンを清掃します。

- ▶ チェンスプロケットカバーのナットを緩めます。
- ▶ テンショニングスクリューを反時計回りに 2 回転させます。  
この段階でチェンが緩みます。
- ▶ ナットを締め付けます。
- ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。

## 12 運搬

### 12.1 チェンソーの運搬

- ▶ チェンソーの電源を切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルから外します。
- ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。

#### チェンソーの運搬

- ▶ チェンソーは、右手で前ハンドルを持ち、ガイドバーを後ろに向けて運搬してください。

#### チェンソーの車両輸送

- ▶ 倒れたり、ずれたりしないようチェンソーを固定してください。

## 13 保管

### 13.1 チェンソーの保管

- ▶ チェンソーの電源を切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ チェンソーのプラグを延長ケーブルから外します。
- ▶ ガイドバーを完全に覆うようにチェンガードを取り付けます。
- ▶ チェンソーを保管するときは、以下の点を遵守してください。
  - チェンソーを子供の手の届かない場所に保管する。
  - チェンソーを清潔で乾燥した状態にする。
- ▶ チェンソーを 30 日以上保管する場合は、バーとチェンを取り外します。

## 14 清掃

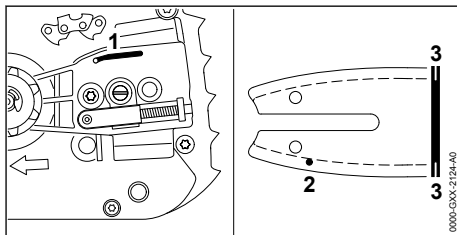
### 14.1 チェンソーの清掃

- ▶ チェンソーの電源を切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ 湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤でチェンソーを拭きます。
- ▶ 通気口を塗装用のはけで掃除します。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り外します。

- ▶ チェンスプロケット周辺部を湿らせた布または STIHL 樹脂溶剤で掃除します。
- ▶ チェンスプロケットカバーを取り付けます。

### 14.2 バーとチェンの清掃

- ▶ チェンソーのスイッチを切り、チェンブレーキを掛け、延長ケーブルのプラグを壁コンセントから抜きます。
- ▶ バーとチェンを取り外します。



- ▶ オイルポート (1)、オイルインレット孔 (2)、バーの溝 (3) を柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- ▶ ソーチェンを柔らかいブラシまたは STIHL 樹脂溶剤で清掃します。
- ▶ バーとチェンを取り付けます。

## 15 整備

### 15.1 整備間隔

整備間隔は、環境と作業条件によって異なります。STIHL 社では次の間隔による整備をお勧めしています：

#### チェンブレーキ

- ▶ チェンブレーキは、以下の間隔で STIHL サービス店に整備を依頼してください：
  - 頻繁な使用時：3 ヶ月毎
  - 時々使用時：6 ヶ月毎
  - たまにしか使用しない時：12 ヶ月毎

#### 毎週

- ▶ チェンスプロケットを点検します。
- ▶ ガイドバーの点検とバリ取りを行います。
- ▶ ソーチェンの点検と目立てを行います。

#### 毎月

- ▶ STIHL サービス店にオイルタンクの清掃を依頼してください。

### 15.2 ガイドバーのバリ取り

- ▶ ガイドバーの外端部にはバリが生じることがあります。
- ▶ バリは平ヤスリまたは STIHL ガイドバードレッシングツールを使用して取り除いてください。
- ▶ ご不明な点があれば：最寄りの STIHL サービス店に連絡してください。

## 15.3 ソーチェンの目立て

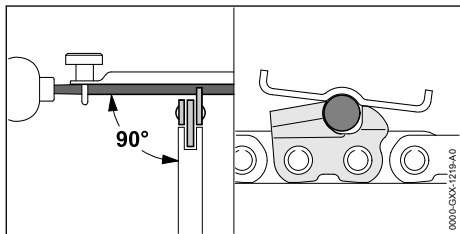
ソーチェンを適切に目立てするには、練習を重ねる必要があります。

STIHL ヤスリ、STIHL 目立て補助具、STIHL 目立て機、「STIHL ソーチェンの目立て」冊子は、良い結果を生むのに役立ちます。冊子は、右記のサイトから入手できます：<http://www.stihl.com/sharpening-brochure>

STIHL 社では、ソーチェンの目立てを STIHL サービス店に依頼されることをお勧めしています。

### 警告

- チェンのカッター部分は非常に鋭利です。切傷を負う危険性があります。
  - ▶ 丈夫な素材の手袋を着用してください。



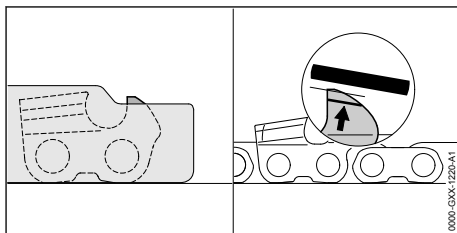
- ▶ 以下の点を遵守しながら各カッターに丸ヤスリをかけます：
  - 丸ヤスリがチェンのピッチと適合しているか確認します。
  - カッターの内側から外側に向かってヤスリをかけます。

## 17 トラブルシューティング

### 17.1 チェンソーのトラブルシューティング

状態	原因	処置
スイッチをオンにしても、チェンソーが始動しない。	電源ケーブルまたは延長ケーブルのプラグが差し込まれていない。	▶ 電源ケーブルまたは延長ケーブルのプラグを再び差し込んでください。
	電源ブレーカー（ヒューズ）または漏電遮断器が働いた。回路に過負荷が加わったか、不具合が発生している。	▶ 遮断器が働いた原因を究明し、不具合を修理してください。電源ブレーカー（ヒューズ）または漏電遮断器をリセットします。 ▶ 同一回路に接続されている他の電気機器を切ります。
	壁コンセントのヒューズ定格が低すぎる。	▶ 電源ケーブルのプラグをヒューズの定格が適切な壁コンセントに差し込みます、 <a href="#">図 18.1</a> 。
	延長ケーブルのワイヤーゲージ（直径）が適切でない。	▶ ワイヤーゲージ（直径）が適切な延長ケーブルを使用してください。 <a href="#">図 18.2</a>
	延長ケーブルが長すぎる。	▶ 適切な長さの延長ケーブルを使用してください、 <a href="#">図 18.2</a>
	チェンブレイキが掛かっている。	▶ チェンブレイキを解除します。

- ヤスリをガイドバーに対して直角になるように保持します。
- 30°の目立て角度を維持します。




- ▶ STIHL ファイリングゲージと同一高になり、サービスマークと平行になるようデブスゲージを平ヤスリで削ります。STIHL ファイリングゲージは、チェンのピッチと適合していなければなりません。
- ▶ ご不明な点があれば：STIHL サービス店にサポートを依頼してください。

## 16 修理

### 16.1 チェンソー、ガイドバー、ソーチェンの修理

ユーザーはチェンソー、ガイドバー、ソーチェンを修理できません。

- ▶ チェンソー、ガイドバー、ソーチェンが損傷した場合は：チェンソー、ガイドバー、ソーチェンを使用しないでください。STIHL サービス店に連絡してください。

状態	原因	処置
	チェンが張り過ぎている。	▶ チェンを適切に張ります。
	バーノーズスプロケットがブロックされている。	▶ バーノーズスプロケットを STIHL 樹脂溶剤で掃除します。
チェンソーが作動中に急停止する。	電源ケーブルまたは延長ケーブルのプラグが壁コンセントから抜かれた。	▶ 電源ケーブルまたは延長ケーブルのプラグを再び差し込んでください。
	電源ブレーカー (ヒューズ) または漏電遮断器が働いた。回路に過負荷が加わったが、不具合が発生している。	▶ 遮断器が働いた原因を究明し、不具合を修理してください。電源ブレーカー (ヒューズ) または漏電遮断器をリセットします。 ▶ 同一回路に接続されている他の電気機器を切ります。
	壁コンセントのヒューズ定格が低すぎる。	▶ 電源ケーブルのプラグをヒューズの定格が適切な壁コンセントに差し込みます、  18.1。
	過負荷保護機能が働いた。	▶ チェンソーを掃除します。 ▶ チェンを適切に張ります。 ▶ 過負荷保護機能をリセットします。
鋸断中に煙が発生するか、焦げる臭いがある。	チェンが適切に目立てされていない。	▶ チェンを適切に目立てします。
	チェン潤滑システムがチェンオイルを十分に供給していない。	▶ チェンソーを使用せずに、STIHL サービス店でチェン潤滑機能の点検を受けてください。
	チェンソーを適切に使用していない。	▶ 適切な使用方法の説明を受け、練習を積んでください。

## 18 技術仕様

### 18.1 チェンソー STIHL MSE 141 C

- 電源電圧：銘板参照
- 周波数：銘板参照
- ヒューズ：15 A
- 消費電力：1400 W
- 重量 (ガイドバー、ソーチェンを除く)：3.7 kg
- オイルタンク最大容量：215 cm<sup>3</sup> (0.215 l)
- 感電保護クラス：II
- 電気的な保護等級：IP20 (指による接触に対する保護、直径 > 12 mm の異物の侵入に対する保護)

### 18.2 延長ケーブル

延長ケーブルを使用するときは、アースリードが内蔵され、ケーブル (導体) の断面積が以下の最低要件 - 延長ケーブルの線間電圧と長さによって異なる - を満たす必要があります：

**定格ラベルに記載されている定格電圧が 220V から 240V までの場合：**

- 20 m までのケーブル長：AWG 15 / 1.5 mm<sup>2</sup>
- 20 m から 50 m までのケーブル長：AWG 13 / 2.5 mm<sup>2</sup>

**定格ラベルに記載されている定格電圧が 100 V から 127 V までの場合：**

- 10 m までのケーブル長：AWG 14 / 2.0 mm<sup>2</sup>

- 10 m から 30 m までのケーブル長：AWG 12 / 3.5 mm<sup>2</sup>

### 18.3 チェンスプロケットとチェンスピード

以下のチェンスプロケットを使用できます：

- 7 枚歯、3/8" P 用
  - チェーン最高速度：14.6m/s
- 8 枚歯、1/4" P 用
  - チェーン最高速度：11.1 m/s

### 18.4 ガイドバー溝の最小深さ

溝の最小深さは、ガイドバーのピッチによって異なります。

- 3/8" P：5 mm
- 1/4" P：4 mm

### 18.5 騒音値および振動値

音圧レベルの特性値は 2 dB(A) です。音響パワーレベルの特性値は 2 dB(A) です。振動値の特性値は 2 m/s<sup>2</sup> です。

STIHL では、聴力保護具を着用することをお勧めしています。

- EN 62841-4-1 に準拠して測定した音圧レベル L<sub>pA</sub>：93 dB(A)。
- EN 62841-4-1 に準拠して測定した音響パワーレベル L<sub>WA</sub>：101 dB(A)。

- EN 62841-4-1 に準拠して測定した振動値  
 $a_{hv}$  :  
 - コントロールハンドル : 4.2 m/s<sup>2</sup>。振動値の特性値は 2 m/s<sup>2</sup>です。  
 - ハンドルバー : 3.3 m/s<sup>2</sup>。

記載されている音響・振動値は、規格に基づいた検査方法に従って測定されたものであり、電気製品を比較する際に参考にすることができます。実際に発生する音響・振動値は、使用方法によっては記載値とは異なる可能性があります。記載されている音響・振動値は、音響・振動による負荷を差し当たって判断するために使用することができます。音響・振動による負荷の実際の強さは見積もらなければなりません。そこでは、電気

## 19 バーとチェーンの組み合わせ

### 19.1 STIHL MSE 141 C チェンソー

ピッチ	ドライブリンク クゲージ/溝 幅	長さ	ガイドバー	ノーズスプロ ケット歯数	ドライブリンク ク数	ソーチェーン
1/4" P	1.1 mm	25 cm	ロー□マチック Eミニ	8	56	71 PM3 (3670 型)
		30 cm			64	
		35 cm			72	
3/8" P	1.1 mm	30 cm	ロー□マチック Eミニ	7	44	61 PMM3 (3610 型)
		35 cm			50	
		40 cm			55	

ガイドバーの切断長は、使用するチェンソーとソーチェーンによって異なります。実際の切断長は、規定の長さよりも短い場合があります。

## 20 スペアパーツおよびアクセサリ

### 20.1 スペアパーツおよびアクセサリ

**STIHL** これらの記号は、STIHL 純正のスペアパーツと STIHL 純正のアクセサリに付られています。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリの使用をお勧めしています。

STIHL 社は市場に出回っている商品を継続的に調査しておりますが、他社製スペアパーツとアクセサリの信頼性、安全性、適性を判断することはできません。そのため、STIHL 社はそうした部品の使用を許可しておりません。

STIHL 純正の交換部品と STIHL 純正のアクセサリは、STIHL サービス店から入手することができます。

製品がオフになっている時間と、オンになってはいても負荷なしで稼働している時間も考慮に入れることができます。

振動に関する指令 2002/44/EC の遵守に関する情報は、[www.stihl.com/vib](http://www.stihl.com/vib) に記載されています。

## 18.6 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation) 規制を意味します。

REACH 規定の遵守に関する詳細については、[www.stihl.com/reach](http://www.stihl.com/reach) をご覧ください。

## 21 廃棄

### 21.1 チェンソーの処分

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。

- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

## 22 EC 適合証明書

### 22.1 チェンソー STIHL MSE 141 C

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
 Badstraße 115  
 D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

- モデル : 電動チェンソー
- 製造ブランド : STIHL

- タイプ : MSE 141 C
- シリアル番号 : 1208

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします : EN 55014-1、EN 55014-2、EN 62841-1、EN 62841-4-1。

指令 2006/42/EC 第 12 条第 3 項 ( b ) に準拠した EC 型式試験の実施機関 : VDE Prüf- u. Zertifizierungsinstitut (NB 0366), Merianstraße 28, 63069 Offenbach, Germany

- 認証番号 : 40044665

音響パワーレベルの測定値および保証値は、指令 2000/14/EC の付属書 V に準拠して測定されたものです。

- 音響パワーレベル測定値 : 103 dB(A)

- 音響パワーレベル保証値 : 105 dB(A)

技術資料は ANDREAS STIHL AG & Co. KG の製品認証部に保管されています。

製造年、製造国と機械番号は、チェーンソーに表示されています。

2022 年 8 月 31 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人 

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs & Global Governmental Relations

## 23 パワーツールの安全上の一般的警告事項

### 23.1 はじめに

この章は、手持型モーター駆動電動工具の欧州標準 IEC 62841 に規定されている、策定済みの一般的な安全上の注意事項を複製したものです。

STIHL 社にはこうした注意事項を発行する義務があります。

「電気的な安全」に記載されている、感電を防ぐための安全上の注意事項と警告は、STIHL バッテリーツールには適用されません。



### 警告

- この電動パワーツールに付属する安全上の注意事項、取扱説明書、図、技術仕様にはすべて目を通してください。安全に関する警告事項や指示に従わないと、感電、火災、重傷の原因になることがあります。後日参照するために、警告と指示が記載された書類をすべて保管してください。

警告中の「電動パワーツール」という語は、主電源により駆動される (コード接続) パワーツールまたはバッテリーにより駆動される (コードレス) パワーツールを指します。

### 23.2 作業エリアの安全

- 作業エリアは清潔な状態で維持し、常に十分な明るさを確保してください。雑然としているか、明るさが十分でない作業エリアは、事故を招きます。
- 可燃性の液体、ガス、または粉塵が存在する、爆発が起きやすい環境下では、電動パワーツールを使用しないでください。電動パワーツールは火花を発生し、粉塵やガスが引火することがあります。
- 電動パワーツールの使用時は、子供や第三者を近付けないでください。気が散って、電動パワーツールを制御できなくなることがあります。

### 23.3 電気的な安全

- 電動パワーツールの電源プラグは、コンセントと適合している必要があります。電源プラグにはいかなる改造も行わないでください。接地された電動パワーツールにはアダプタープラグを使用しないでください。改造されていないプラグを適合するコンセントに使用すると、感電の危険が低減されます。
- パイプ、ヒーター、オープン、冷蔵庫等の接地された面に身体の一部を接触させないでください。身体が接地されると、感電が生じる危険が増します。
- 電動パワーツールは、雨や水分にさらさないでください。電動パワーツールに水が入ると、感電の危険が増します。
- 接続ケーブルを他の目的に使用しないでください。絶対に電源ケーブルを持って電動パワーツールを運搬したり、引っ張ったりしないでください。同様に、絶対に電源ケーブルを引いてプラグを外さないでください。電源ケーブルは高温、油分、鋭利な端部、可動部品に近付けないでください。電源ケーブルが損傷するか、絡まると、感電の危険が増します。

- e) 電動パワーツールを屋外で使用するときは、屋外用の延長ケーブルを使用してください。屋外用の延長ケーブルを使用すると、感電の危険が低くなります。
- f) やむを得ず電動パワーツールを濡った場所で使用しなければならない場合は、残留電流装置 (RCD) で保護された電源を使用してください。RCD を使用すると、感電の危険が低くなります。

## 23.4 作業者の安全

- a) 電動パワーツールを操作するときは、常に気を抜かず、作業に集中し、常識を働かせてください。疲れているときや、薬物、アルコール、または薬剤の影響下にあるときは、パワーツールを使用しないでください。電動パワーツールの操作中は、一瞬の不注意で重傷を負うおそれがあります。
- b) 作業者用保護装備を使用してください。必ず目のプロテクターを着用してください。使用する電動パワーツールと各作業に適した保護装備 (防塵マスク、耐滑安全靴、硬質ヘルメット、イヤープロテクター等) は、作業者が負傷する危険を低減します。
- c) 機械が偶発的に始動しないよう配慮してください。電動パワーツールのスイッチがオフになっているか確認してから主電源に接続したり、持ち上げたり、運搬したりしてください。オン/オフスイッチに指を載せるか、電動パワーツールのスイッチをオンにしたまま電動パワーツールを運搬すると、事故が起きるおそれがあります。
- d) 設定用の工具やレンチを取り外してから電動パワーツールの電源を入れてください。工具やスパナを電動パワーツールの回転部品に取り付けたままにしておくと、負傷事故が起きるおそれがあります。
- e) 不自然な姿勢は避けてください。常に適切な足場とバランスを維持してください。想定外の状況下で電動パワーツールを制御しやすくなります。
- f) 適切な衣服を着用してください。ゆったりとした衣服や装身具は身に付けしないでください。髪の毛と衣服を可動部品に近付けないでください。ゆったりした衣服、装身具、長髪は、可動部品に絡まるおそれがあります。
- g) 集塵機を設置できる場合は、適切に接続し、使用してください。集塵機を使用すると、粉塵に関連する危険を低減することができます。
- h) 電動パワーツールに完全に慣れていても、油断したり、安全規則を無視したりしないでく

ださい。不注意によって一瞬で重傷を負うおそれがあります。

## 23.5 電動パワーツールの使用と保守

- a) 電動パワーツールに無理な力を加えないでください。用途に適した電動パワーツールを使用してください。適切な電動パワーツールを使用すると、設計上の速度で、より効率的かつ安全に作業が遂行されます。
- b) スイッチが故障している場合は、電動パワーツールを使用しないでください。スイッチで電源を制御できない電動パワーツールは危険であり、修理する必要があります。
- c) 電源からプラグを抜くか、本体からバッテリーパックを取り外してから、パワーツールの調整、アクセサリーの交換、またはパワーツールの保管を行ってください。こうした安全予防措置を講じると、電動パワーツールが偶発的に始動する危険が低減されます。
- d) 使用していない電動パワーツールは、子供の手の届かない場所に保管してください。操作に慣れていないか、取扱説明書や助言書をお読みいただけない作業中には、電動パワーツールを使用させないでください。電動パワーツールは、訓練を受けていない作業者が使用すると危険です。
- e) 電動パワーツールとアクセサリーは、保守をしながら使用してください。可動部品のずれや固着、部品の損傷、電動パワーツールの機能に影響を及ぼすおそれがある他の不具合がないか点検してください。損傷している場合は、電動パワーツールを修理してから使用してください。事故の多くは、保守が不適切な電動パワーツールによって引き起こされています。
- f) カuttingアタッチメントは、常に目立てをした清潔な状態に保ってください。刃先を目立てし、慎重に保守したCuttingアタッチメントを使用すると、作動しなくなる可能性は低くなり、制御が容易になります。
- g) 電動パワーツール、アクセサリー、工具ビット等は、作業条件と実施する作業内容を考慮しながら、これらの指示に従って使用してください。電動パワーツールを本来の用途以外に使用すると、危険な状況が生じるおそれがあります。
- h) ハンドルやグリップの表面は、オイルやグリースが付着していない、清潔で乾いた状態に保ってください。ハンドルやグリップの表面が滑りやすくと、電動パワーツールを適切に操作できなくなり、想定外の状況が生じたときに制御を失います。



## 23.6 修理点検

- a) 電動パワーツールは、認可を受けた修理技術者に純正交換部品のみを使用して修理してもらうべきです。これにより、パワーツールの安全性を維持することができます。

## 23.7 チェンソーの安全上の注意事項

### チェンソーの一般的な安全上の注意事項

- a) チェンの動作中は、身体の中のどの部分もソーチェンに近づけないでください。チェンを起動する前に、ソーチェンが何にも接触しないことを確認してください。チェンソーで作業する際は、一瞬の不注意が原因で、衣服や身体部位がソーチェンに巻き込まれる可能性があります。
- b) チェンソーを持つ際は、常に右手で後方のハンドルを、左手で前方のハンドルを握ってください。逆の作業姿勢でチェンソーを持つと怪我のリスクが高まるため、絶対に行ってはなりません。
- c) チェンソーを持つ際は、絶縁されたハンドル面以外は握らないでください。ソーチェンが隠れている電気ケーブルや本体の電源ケーブルに当たる可能性があります。ソーチェンが通電状態のケーブルと接触すると、本体の金属部分にも電圧が掛かり、感電に至る可能性があります。
- d) 保護眼鏡を着用してください。それ以外にも、聴覚、頭部、手、脚と足の保護具を着用することをお勧めします。適切な保護服を着用することで、切り屑が飛散した場合やソーチェンに偶然触れた場合に怪我をする危険性が低下します。
- e) 木、梯子、屋根の上または不安定な足場ではチェンソーで作業しないでください。そのような方法で使用すると、怪我をする危険があります。
- f) 足場がしっかりしていることを常に確認し、チェンソーは固くてしっかりしている平らな地面の上に乗っている状態でしか使用しないでください。滑りやすい地面や不安定な足場で使用すると、チェンソーの制御を失う可能性があります。
- g) しなっている枝を切断する際は、枝が跳ね返ることを計算に入れてください。木の繊維に掛かっている張力が解放されると、しなっている枝が操作者に当たったり、チェンソーが制御できなくなったりする可能性があります。
- h) 茂みや若木を切断する際は特に注意してください。細い木材はソーチェンに絡まり、操作

者に当たるか操作者がバランスを崩す可能性があります。

- i) チェンソーを持ち運ぶ際は、スイッチをオフにした状態で前方のハンドルを持ち、ソーチェンを身体とは逆の方向に向けてください。チェンソーを運搬または保管する際は、常に保護カバーを掛けてください。チェンソーを慎重に取り扱うことで、動作中のソーチェンに誤って触れる可能性が低下します。
- j) 潤滑、チェンの張り、ガイドバーとソーチェンの交換に関する指示に従ってください。チェンの張り方や潤滑が適切でないと、チェンが切れるかキックバックが発生するリスクが高まります。
- k) 木材以外は鋸断しないでください。所定の用途以外の作業にチェンソーを使用しないでください。例：金属、プラスチック、壁、木製以外の建設資材の鋸断にチェンソーを使用しないでください。所定の用途以外の作業にチェンソーを使用すると、危険な状況に至る可能性があります。
- l) 木を切り倒す際は、リスクとその防止方法を良く理解してから試みてください。倒木により使用者または他の人物が重傷を負う可能性があります。

## 23.8 キックバックの原因と防止

ガイドバーの先端が物体に触れるか、木材が曲がってソーチェンが切断部に挟まって動かなくなると、キックバックが発生する可能性があります。

バーの先端が物体に触れると、場合によっては後方に向かって予期せぬ形で反応し、ガイドバーが上に向かって操作者の方向に跳ね返ることがあります。

ソーチェンがガイドバーの上端に挟まって動かなくなると、バーが操作者の方向に急激に跳ね返ることがあります。

これらの反応はどれも、チェンの制御を失い、重傷を負う可能性が発生することにつながる恐れがあります。チェンソーに取り付けられている安全装置だけに頼ることは控えてください。チェンソーの使用者として各種の措置を講じて、事故や怪我なしで作業できるようにしてください。

キックバックは、チェンソーの誤使用または不適切な使用の結果として発生します。下記などの適切な予防措置を講じることで防止することができます：

- a) 親指とその他の指でチェンソーのハンドルを握りながら、チェンソーを両手でしっかりと持ってください。キックバックの力に耐えられる位置に身体と腕を配置してください。適

切な措置を講じれば、操作者はキックバックの力を制御することができます。絶対にチェンソーから手を放さないでください。

- b) **体の姿勢が不自然になることは避け、肩の高さより上の位置では鋸断しないでください。** そうすれば、バーの先端が物体に意図せず触れることが防止され、予期せぬ状況下でチェンソーが制御しやすくなります。
- c) **メーカー指定の交換用バーとソーチェンを常に使用してください。** 誤った交換用バーやソーチェンを使用すると、チェンが切れたりキックバックが発生したりする可能性があります。
- d) **ソーチェンの目立てとメンテナンスに関するメーカーの指示に従ってください。** 深さリミッターが低すぎると、キックバックが発生する傾向が強まります。



[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



0458-729-4321-C



0458-729-4321-C